

新ひだか町立病院コラム

Vol. 5

地域に根付くりハビリテーションを。

「リハビリテーション」と聞いて、あなたはどんなことを思い浮かべますか？

筆者はアスリートがケガをして必死にリハビリをし、現役復帰する姿が浮かび上がります。この場合の目標は「現役復帰すること」になりますね。2020東京オリンピックでも、大きなケガや病気を乗り越えてメダルに向かうアスリートの姿がとても印象に残りました。私たちリハビリテーションのスタッフは、その目標に向かって頑張る方のお手伝いをさせていただきます。中には「杖をつかないで歩けるようになりたい。」「自分でトイレに行けるようになりたい。」など、人それぞれ目標は変わってきますので、リハビリテーションの主役は、私たち職員ではなく、ケガや病気などにより困っている方となります。

町立静内病院では、ケガや病気によって、生活に支障が出たり、困っている方に対して、その方の希望や必要に応じたリハビリを行い、時には患者さんの自宅に訪問し、リハビリの目標を確認したりと、患者さん一人一人が目標とする姿へ戻れるよう当院のスタッフがサポートしています。

あなたが困っていることは何でしょうか。
当院のスタッフが困っている方のサポートを一生懸命させていただきますので、
気軽にご相談ください。



整形外科は毎週火曜の午前中です。

院長のつぶやき

院長の小松です。例年のない暑さの中、コロナ禍により、1年遅れて開催された2020東京オリンピックは、様々な感動とともに閉幕しました。そして8月24日からはパラリンピックが開幕します。

ご存じの方もいるかと思いますが、パラリンピックの語源は、元々パラプレジア (Paraplegia, 下半身麻痺) + オリンピック (Olympic) の造語で、1964年の東京大会の愛称として初めて使用されたそうです。その後、半身不随以外の身体障がい者も参加するようになり、IOCは1985年に大会の名称を正式にパラリンピックとしました。同時に大会名の意味を「ギリシア語のパラ (Para, 平行の意味) + オリンピック」とし、「もう一つのオリンピック」として再解釈することになりました。パラリンピックは当初、福祉的側面から捉えられていましたが、近年、陸上競技や車いすテニス等でプロ選手が誕生し、「障がい者アスリート」という言葉も使われるようになり、現在は、競技スポーツとして発展し、今やパラリンピックはオリンピック、サッカーワールドカップに次ぐ世界で3番目に大きなスポーツイベントになっています。

今度はパラアスリートの活躍を新型コロナや暑さに負けずに応援しましょう！

作成：新ひだか町立病院

❖ 町立静内病院 0146-42-0181 (代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

❖ 三石国保病院 0146-33-2231 (代表)

新ひだか町三石本町214番地